

旧保高宿 今後のまちづくりに向けた 提 言

まちづくりワークショップ&フォーラム開催報告

～保高宿のいいところをさがして、まちの未来を語り合おう～

平成 25 年 1 月

NPO 法人 信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部

ワークショップ参加者一同

目 次

1. 取り組みの趣旨	1
2. 旧保高宿の位置・概要	2
3. 旧保高宿まちづくりワークショップ&フォーラムの開催経緯	4
ワークショップ概要	4
安曇野まちづくりフォーラム概要	8
4. 今後の旧保高宿エリアのまちづくりへの提言	10
4.1 わたしたちが見つけた宝の特徴	10
4.2 宝さがしから気づいたこれからの保高宿のまちづくりのあり方	13
4.3 まちのかたちに関する提案 ～ゾーンと動線～	14
4.4 まちづくり 10 の提案	19
4.5 今後のまちづくりの進め方への提案	21

1. 取り組みの趣旨

ふるさとウォッチングからウォークラリー、そして

■ ふるさとを見つめなおす活動

NPO 法人信州ふるさとづくり応援団では、この安曇野に先人たちが残してくれた田園風景や歴史的まちなみを訪ね歩く“ふるさとウォッチング”を重ねてきました。

これまで15回開催してきましたが、これがきっかけで、ウォークラリーなどさらに新たな取り組みに発展してきているのが、穂高神社から旧千国街道にかけての「旧保高宿エリア」です。



- 平成 22 年 3 月 第 8 回ふるさとウォッチング
- 平成 22 年 11 月 まちなかガイドウォーク
- 平成 23 年 2 月 あめ市ウォークラリー
- 平成 23 年 9 月 古本市ウォークラリー
- 平成 24 年 1 月 ふるさとウォッチングマップ第 2 集発行
- 平成 24 年 2 月 あめ市ウォークラリー&まちなかガイドウォーク

■ 旧保高宿まちづくりワークショップの趣旨

「美しい山岳と田園風景」のイメージが定着している安曇野市のなかにあって、旧保高宿エリアには、ほかの地域とも違った「いいところ」があるからこそ、このような取り組みへと発展したと考えられます。このワークショップは、「いいところ」をもっと掘り下げて発見し、そこから見えてくる未来のまちの姿を考えてみようという趣旨で取り組んでいます。

No.8 穂高・保高宿地区

—— 千国街道・塩の道の宿場を訪ねて ——

◆コースタイム ※時間は歩速 5km / 毎時としての目安です（休憩含まず）。

スタート 穂高神社→約 0.6km * 12分→十王堂→約 0.5km * 10分→井口善願池記念館→約 1.0km * 20分→穂高公園→約 0.7km * 14分→旧若松屋→約 1.2km * 24分→磯山美術館→約 0.4km * 8分→穂高駅→約 0.3km * 6分→ゴール 穂高神社 【合計】約 4.7km * 1時間 34分

「塩の道」とも称される松本と糸魚川を結ぶ千国街道。その松本宿から数えて3番目の宿場がここ保高（穂高）宿です。

かつては日本海から海産物、内陸からは麻や木綿、木炭などを運ぶ街道の宿として発達。明治後期以降はとくに活況で、養蚕やワザビ栽培の発展と、それを売買する商人たちにより、現在旧道と呼ばれているメインストリートのほか、明料方面へ抜ける狐小路などはとてもにぎわっていました。

旧街道沿いのまちなみ

明治 42 年（1909）建立の穂高神社の石造大鳥居

磯山美術館本館（国登録有形文化財）

農路地の懐かしい風景

駅前通りにある石造物群

明治 6 年（1769）作の穂高神社若宮社前の狛犬
※安曇野市知識 p.29

2. 旧保高宿の位置・概要

■ 旧保高宿の概要

塩の道とも称される松本と糸魚川を結ぶ千国街道で、松本から数えて3番目の宿場である保高宿には、今でも蔵造りの古民家や老舗の商店、枡形や裏路地等、当時の面影が残っています。

かつては日本海から海産物、内陸からは麻や木綿、木炭などを運ぶ街道の宿として発展。明治後期以降はとくに活況で、養蚕やワサビ栽培の発展と、それを売買する商人たちにより、現在旧道と呼ばれているメインストリートのほか、明科方面へ抜ける狐小路などはとてもにぎわっていました。かつては、多くの人々が行き交う賑わいの空間でもありました。



寛政年間ごろの穂高宿絵図(等々力町 二木節利氏所蔵)



■ 対象とした範囲・一带の歴史的資源等

ワークショップでは、下図のなかでも穂高会館～穂高神社にかけての旧保高宿一带（南北の枡形では含まれる区間 → ）を主な対象としました。穂高神社を筆頭に、このなかには松沢求策の生家や土蔵、漆喰壁の建築物などの歴史的な資源が見られます。

また、一带の歴史を紐解く上では、ここに続く狐小路一带や、少し離れていますが、等々力城、東光寺についても意識するご意見もあったことから、少し範囲を広げてみていくこととしました。



■ 保高宿に着目する 4つの背景

1. 古くから残るものの価値が再認識されつつある

- 平成12年には文化庁が一带の建築物を調査
(中央日本塩の道地域連携整備計画調査文化庁調査報告書)
- 宿場の面影が貴重な存在になってきている
市内での古民家調査が始まる (H24～)

2. 人と人の交流を促す場としての新しい価値が生まれてきている

貴重さを伝える、活かす取り組みが始まっている

- ふるさとウォッチング、まちなかガイドウォーク
- ウォークラリーの開催
(あめ市では200人以上が参加)



3. 古くからのものを継承できなくなる懸念

高齢化の進行と若年層の減少がみられ、語り部・伝え手がいなくなってしまう懸念があります。

	0-14歳	15-64歳	64歳以上	合計
等々力町区	273 →205	1319 →1197	563 →603	2155 →2005
穂高町区	269 →243	1131 →1052	369 →439	1769 →1734

4. 古きよきものが壊れ厄介者になりかねない現状

手入れが行き届かず、老朽化してしまったことで、壁材の破損や落下による通行制限も発生しています。



3. 旧保高宿まちづくりワークショップ&フォーラムの開催経

■ ワークショップ概要

地元の方々にもご参加いただきながら、平成24年7月～12月の間に、9回開催しました。参加人数は延べ120人でした。

下図に示す内容で、3つの段階に区切って会議を進めました。対象エリアの古い地図を探ることから始め、複数回の現地踏査を経ていいところや課題を整理し、今後のまちづくりの工夫を議論しました。



第1段階 地図や道から成り立ちをたどり現地を眺める

保高宿は、松本から数えて旧千国街道(塩の道)の3番目の宿場。古い地図や写真を使って「道」を追いかけて、現地でその名残を探す作業を通じて、町の変遷を探ってみました。

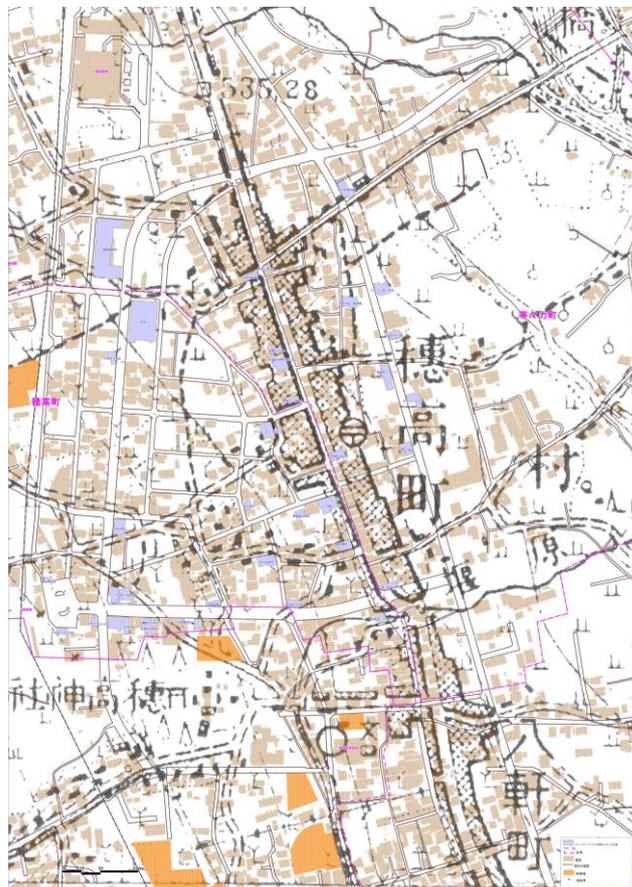
大正2年の地形図と現在の道路の重ね合わせ



昭和46年の空中写真



大正2年の地形図に平成19年の土地利用を重ね合わせた図



参考図 道の年代区分で見えてきた3つのエリア

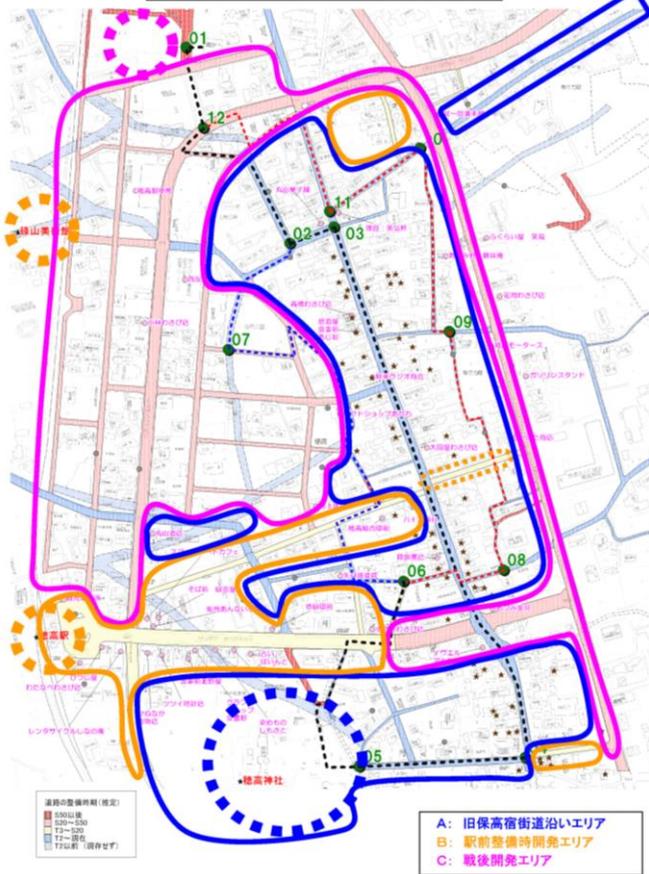


図 道路整備年代によるエリア区分

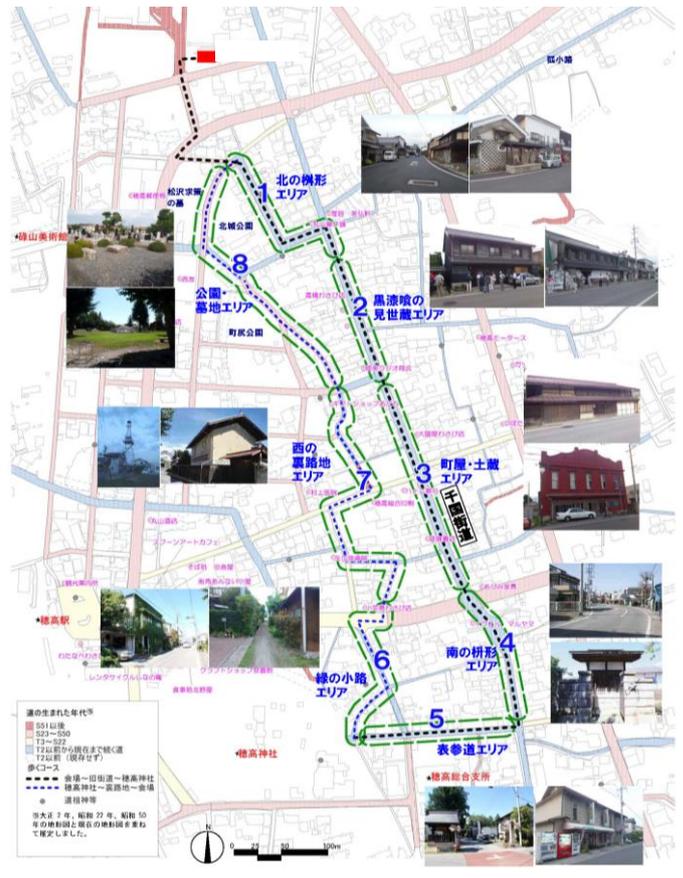


図 第1段階踏査コース沿道のエリア区分

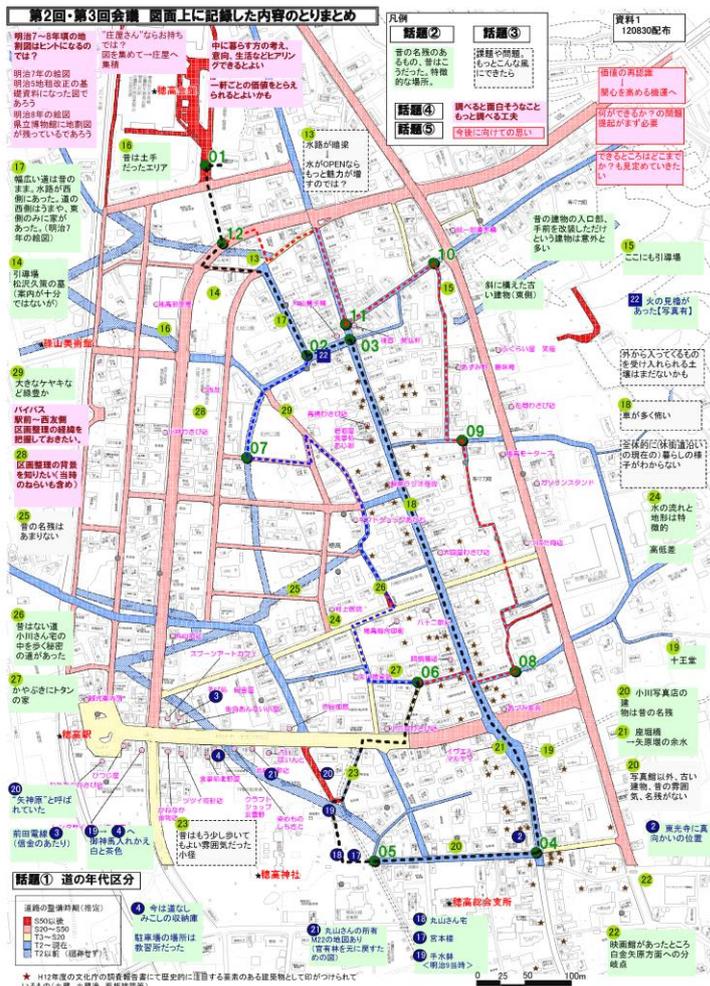


図 第1段階踏査で気付いたこと・思い出話等のまとめ

第2段階 歩いて見つけた 保高宿一帯の特徴・気づいた工夫

歩いて見つけたいいところ・課題のある箇所

現地踏査をしながら、いいところを整理していく中で見えてきたキーワードは「暮らし」。暮らしのなかで育まれてきた様々な「こと」や「もの」が、時代とともに姿や中身を変えながら、このエリア内にちりばめられるようにみられます。

特徴・いいところ

弱み・課題

水の表情あれこれ 湧き出し 水路 せせらぎ 音だけの水路も多いという現実 	水を使う 	裏の景色 暮らし 宿場町を裏からみることでできる趣のある路地 地域の方々のくらしの道ヨソ者が自由に立ち入ることがはばかれる空間路地付近まで「車」社会 	路地・小路 動く・歩く 古くから残る木陰のある暮らしの道 	名残 橋の跡 井戸 解説や案内がないと発見の難しいものが多く埋もれているのでは？ 	昔の生活基盤 	踏み出せばそこには田園風景 街から一歩外に出れば田んぼ、水路、緑 耕さない耕作地 荒廃わきび畑 荒廃農地の存在 	生産
---	-----------------	--	--	---	-------------------	--	---------------

塩の道の宿場の面影・懐かしい建物 住む 土蔵 漆喰 町屋 看板建築 連続性に欠ける 各所に分散 価値を感じない地元の住民が多いのでは？ 宿場を思わせる「中心」がない 	買物のしやすさ 西友 セリアの存在 旧街道沿いでの営業店舗の減少 	交通の利便性 徳高駅 高速バス停 旧道の通過、自動車交通の多さ（危険な散策になりかねない状況） 	現代流の暮らし 公園などの公共施設の充実 徳高会館 北城公園 徳高総合支所 町尻公園 活かされていない公園 	信仰・祭・祝う 徳高神社の存在感を知らせる あれこれ 徳高神社 お船祭り 「神社」らしい参道がない 歴史や文化が伝わりにくい 観光客がここだけでは楽しめない 歩くことが楽しくなるようなしつけがない 山車がひねり歩けるようなまち、まちになっていない 	城や寺とのつながり 伝える 等々力城：城下町 東光寺：門前町 存在を知らない人が多い 宿場との歴史的つながりが不明
調和のための小さな工夫 住む 狐小路でみつけた「配慮」 プロパンボンベを隠す 格子をつける 板敷を再生する 	調和させる・活かす 住む 古きよきものになじませる、活かす 助成などの制度が十分でない 古い建物を貸し出すケースが少ない（「活かす」機運が十分ではない） 	大正ロマン漂う店舗 商う・買う 店舗として営んでいるケースは少なく、維持する必然性が低下する懸念 	再利用 古民家を店舗として再利用 	まちなかにある信仰 	偉人の話 伝える 松沢求策 小川大系 他 偉人の物語を知らない人が多い

歩いて気づいた今後の工夫

ハード

ソフト

A1 水を使う ■まちなかで現代流に水に親しめる場を生み出す ・水面のみえる空間を年に1箇所ずつ増やす ・駅前と井戸・まちなか足湯・水路の「見える化」 	A2 動く・歩く 暮らし ■旧街道を歩きやすい空間に変える・歩道の整備、ハンブなど 舗装・幅員のとり方を変える【通過自動車交通がゆっくり運転してくれるまち】 ○自動車交通への制限 行進車開催時に時間通行止め、一方通行の場巻をとる 地元の生活者が困らない自動車通行制限であるべき ○明確な「歩くルート」の設定：「回避の道」設定 ○地元の散歩コースとして共通認識→マナー向上へ ○自転車乗り捨てのしづみ ○歩きながら楽しめるしつけ（路面タイル等） 	A3 昔の生活基盤 ■伝えるサイン 一見するだけではわかりにくい暮らしの名残は、できる限りサインや案内板で伝える。 ○地元詳しいことを増やす学習 ○見やすい地図 何があるかを伝える地図 	A4 生産 ■放棄された農地の再生・活用 まちなかに程近い荒廃わきび畑を再生もしくは水辺として活用。 ■緑の散歩道 狐小路から徳高公園に続く道をもっと明るく空間に。地元住民、市民、来訪者が喜ぶ散歩道空間へ。 ○徳高神社→旧街道→田園風景に短時間で一周してふれあえる特色を楽しめるコースや案内
---	--	--	---

B1 住む ■塩の道の宿場の面影・懐かしい建物はできる限りのこし、活用していく。 かっさちの土蔵の保存 ■傷んできている古きよきものを直していく、維持していく ○修繕・維持への助成・支援 ○危険度調査 ○存在の周知 「古いものが残っているよ」を地元知らせる 	B3 現代流の暮らし ■くつろぐポイントを！ 休み処やポケットパーク ■富方からこれた方が行きかう場→神社や駅前の商店から旧街道・田園周遊へ ○老若男女がくらすまち 定住人口増加策 ○交流するしつけ やったら楽しよ 他県との交流行事 ○公園改修 まちなか公園の役割を定めた上での改修 ○見やすい地図 何があるかを伝える地図 	B4 信仰・祭・祝う ■徳高神社の表参道を ■灯籠等の位置の見直し ■徳高神社駐車場の位置一総合支所側へ ■山車がひねり歩けるような街・道の構造への転換 ○徳高神社→保高宿をめぐるとなるしつけ 買い物を楽しむ 歴史を知る・学ぶ 等 ○ステージ 御船の常設展示 ○地区の枠を超えた行事 ができるおまつり・行事 別の地区の方も一緒に 御船を引ける取り組み 	B5 伝える ■インフォメーションセンター ■語り部が集い・交流できる拠点 ○保高宿物語 ・宿場の歴史の掘り下げ ・保高宿ブランドづくり ・伝えていく内容を、場所と関連付けて物語化 ・等々力城跡、東光寺までスポットをあてて ○語り部の養成 ○おじいちゃん先生・おばあちゃん先生 ○読本・DVDなどによるデータベース ○学校との連携による「地元学習・地元体験」 徳高商業の生徒が丸山菓子舗で菓子づくり体験 等 ○知らせる場・懐かしがることのできるような場や機会がほしい あと10年で忘れ、失われてしまう昭和30年代までの古いものや思い出がたくさん
B2 商う・買う ■昔の輝きを残す店舗の建物を残す ■看板デザイン【色などの統一】 ■保高宿らしい外灯への転換 ○生活の負担にならないような昔の店舗の残し方 ○人々が集い行きかうしつけを展開 イベント 軽トラ市、商博サミット ストリートパフォーマンス ライトアップ あめ市 ○空店舗の活用への助成 自店舗で現代流の魅力ある商品を振る ○昔なつかしいものを売れるまち ○賣り物需要の掘り起こし 買し手と借り手、売り手と買い手のニーズの把握と調整 			

■ 安曇野まちづくりフォーラム概要

平成 24 年 11 月 17 日に穂高商工会館にて安曇野まちづくりフォーラムと題して、

ワークショップでの検討報告も兼ねながら、実際にまち歩きを体験しながら市民主体のまちづくりについて考えるフォーラムを開催しました。

安曇野及び松本エリア一帯で古民家の再生や歴史あるまちなみの再生に携わる建築家川上恵一さんによる「まちづくりは宝探しだ！」の基調講演を受け、保高宿界隈を参加者一同で散策し、そのお宝度を評価しました。

その評価の結果と旧保高宿まちづくりワークショップでの検討の報告を踏まえ、パネルディスカッション「地域の宝を生かした市民主体のまちづくり」を行いました。

平成 24 年度長野県元気づくり支援金事業

安曇野まちづくりフォーラム 2012

～ 地域の宝を生かした市民主体のまちづくり ～

塩の道とも称される千国街道の旧保高宿には、今でも蔵造りの古民家や老舗の商店、枳形や裏路地等、当時の面影が残っています。旧保高宿周辺は平成 22 年 3 月のふるさとウォッチングの開催を機にウォークラリーやまちなかウォーク等が継続的に開催され、平成 23 年 3 月に策定された安曇野フィールドミュージアム構想の重点エリアの 1 つにも選定されています。

本フォーラムは、7 月から 7 回にわたってワークショップを開催した旧保高宿を事例として、

実際にまち歩きを体験しながら市民主体のまちづくりについて考えます。

この機会に今後の安曇野のまちづくりについて一緒に考えてみませんか？



- 【日 時】 平成 24 年 11 月 17 日 (土) 13:00 ~ 17:00 安曇野市商工会穂高支所
- 【内 容】 《基調講演》 「まちづくりは宝探しだ！」
川上 恵一 氏 (有) かわかみ建築設計室
《事例発表》 「旧保高宿周辺のまちづくりに向けて」
《まちなみウォーク》 「旧保高宿まちなみ散策」
《パネルディスカッション》 「地域の宝を生かした市民主体のまちづくり」
川上 恵一 氏 (有) かわかみ建築設計室
鈴木 幸佳 氏 (NPO) ぐるったネットワーク大町
等々力 秀和 氏 (NPO) 信州ふるさとづくり応援団
- 【主 催】 NPO 法人信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部
- 【共 催】 安曇野市歩いて楽しいまちづくりプロジェクト研究会、安曇野市商工会穂高支部
- 【後 援】 長野県、安曇野市、安曇野市教育委員会、安曇野環境市民ネットワーク、信濃毎日新聞社、市民タイムス
- 【協 力】 安曇野まちなかにぎわいプロジェクト安曇野百選プロジェクト、屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト、長野県建築士会安曇野支部、安曇野案内人倶楽部、穂高町区、等々力町区
- 【問合せ】 NPO 法人信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部
〒399-8304 安曇野市穂高柏原 1132-2 (有) ライフポート安曇野内
TEL 0263-81-1325 (平日 9:00~18:00) URL <http://npo-furusato.way-nifty.com/azumino>

- (旧保高宿での主な活動経緯)
- 平成 22 年 3 月 第 8 回ふるさとウォッチング
 - 平成 22 年 11 月 まちなかガイドウォーク
 - 平成 23 年 2 月 あめ市ウォークラリー
 - 平成 23 年 3 月 安曇野フィールドミュージアム基本構想策定
 - 平成 23 年 9 月 古本市ウォークラリー
 - 平成 24 年 1 月 ふるさとウォッチングマップ・第 2 集発行
 - 平成 24 年 2 月 あめ市ウォークラリー&まちなかガイドウォーク
 - 平成 24 年 10 月 古本市ウォークラリー



平成 24 年 11 月 17 日

安曇野まちづくりフォーラム 2012

～ 地域の宝を生かした市民主体のまちづくり ～

- 13:00~ 【開 会】
- 13:15~ 【基調講演】 『まちづくりは宝探しだ!』
川上 恵一 氏 (有) かわかみ建築設計室
- 14:15~ 【まちなみウォーク】 旧保高宿まちなみ見学
- 15:45~ 【事例発表】 『旧保高宿周辺のまちづくりに向けて』
藤村 忠志 氏 (株) KRC
- 16:15~ 【パネルディスカッション】 『地域の宝を生かした市民主体のまちづくり』
パネリスト:
川上 恵一 氏 (有) かわかみ建築設計室
鈴木 幸佳 氏 (NPO) ぐるったネットワーク大町
等々力 秀和 氏 (NPO) 信州ふるさとづくり応援団
コーディネーター:
宮崎 崇徳 氏 (NPO) 信州ふるさとづくり応援団
- 17:00 【閉 会】
- MEMO

NPO 法人信州ふるさとづくり応援団

■第1部 基調講演 「まちづくりは宝探しだ！」 川上恵一氏

基調講演では、保高宿にある古川邸の再生の設計に携わられた川上恵一さんに「まちづくりは宝探しだ」という演題でお話いただきました。

まちづくりで一番大事な宝は何でしょうか？という問いかけから始まり、前半では、まちの宝探しの着眼点やポイントをお話いただいた（右下資料参照）きました。第2部の保高宿の散策（まちなみウォーク）のヒントをいただきました。

続けて後半では、ご自身が関わられた松本市の城下町の成り立ちと町並み、中町や縄手通りの再生における技術的な工夫などのお話を、スライドを交えて紹介いただきました。

■第2部 まちなみウォーク

第2部では、実際に現地に出て、参加者の皆さんに保高宿エリア一帯の宝探しを体験いただきました。

2班に分かれ、道案内程度の簡単なガイドのもと第1部の講演内容を踏まえながら、参加者の皆さんに歩いていただきました。

旧街道と西側の裏通りを巡るコースを8つのエリア分け、まちなみウォークのお宝としての印象を4段階で評価し、一人ひとり右のような表に記入いただきました。結果は第3部開始前に集計し、パネルディスカッションの参考資料として用いました。

■第3部 パネルディスカッション

【パネラー】

川上恵一氏（有）かわかみ建築設計室
鈴木幸佳氏（NPO）ぐるったネットワーク大町

等々力秀和氏（NPO）信州ふるさとづくり応援団

【コーディネーター】 宮崎崇徳氏

（NPO）信州ふるさとづくり応援団

第1部の講演、第2部のお宝度チェックを兼ねたまちなみウォークの結果を踏まえ、地域の宝を生かした市民主体のまちづくりをテーマに議論い

【討論の要点】

- まちづくりはひとづくり、人はまちづくりの宝。だからこそ、間を取り持つ役目を果たす市民団体では、まちでがんばっている人々を引出す役割が大事。「あなたがいないとできないのよお」という気持ちが必要。
- まちを歩いて見えるものだけでなく、見えないものを探すことも魅力のひとつ。魅力の気付き促す、記憶を呼び起こすきっかけ（装置）として建築、祭り、地名などがある。
- ここに暮らす人が満足できるまちに。そのためにも得意分野をもつ人々の緩やかな集合体形成していかねばならない。

別紙アンケート用紙No.

安曇野まちづくりフォーラム
まちなみウォーク記録表 — まちの宝さがしミニ体験 —

「お宝」の視点でみたときの旧保高宿界隈の印象をお書きします。
この用紙は、ウォーク終了後回収し、パネルディスカッションの参考とさせていただきます。

お宝印象 ランク	A	B	C	D	丸印をつけた理由 気づいた事など
	お宝 ざくざく	お宝 そこそこ	お宝 ちよこちよこ	お宝 ないない	
エリアNO (※)	記入前	○	1~8の各エリアがA~Dのいずれかの印象に感じ、判断して、正しいもの1つに○をつけてください。		よく見るその地図がわかるものなどは、○(O)など呼ばれたいので。
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

※エリア番号はA3カラーの地図の青い番号と対応します

BやCのお宝を活かしたり、應じていくにはどうすれば良いと思いますか？
ご意見やご提案等があれば自由にお書きください。

■ご自身のお宝をお書きください。（該当するもの1つに○印をつけてください）

【住所】 ① 安曇野市(区) ② 長野県内(市町村) ③ 長野県外(県)

【性別】 ① 男 ② 女 【年齢】 ① 20代以下 ② 30~40代 ③ 50~60代 ④ 70代以上

